

BCG 接種医別の接種技術評価

スギタ ヨシユキ マエダ ヒデオ モリ トオル
杉下 由行* 前田 秀雄* 森 亨^{2*}

目的 日本では、管針を用いた経皮接種により BCG 接種が行われている。本調査の目的は BCG 接種による針痕数が接種医によって異なるか否かを検証することである。

対象と方法 東京都葛飾区の3歳児健診に來所した218人に調査を行った。対象者全員が葛飾区の保健所で生後4か月時に管針法による BCG 接種を受けている。管針法では最大18個の針痕を確認する事ができる。BCG 接種による針痕数の調査を行い、接種医別にその個数をまとめた。

結果 平均針痕数は9.23個 (SD6.11) であった。同じ管針法で行われた特別区22区の平均針痕数 (12.18 ± 5.64) より有意に低く ($P < 0.01$)、22区の中で3番目に低い結果であった。平成12年結核緊急実態調査での全国の針痕数の調査結果と比較しても、葛飾区の平均針痕数は有意に低かった ($P < 0.05$)。葛飾区では7人の接種医の間で平均針痕数は明らかな違いを認めた。良好な接種医上位2人の平均針痕数はそれぞれ15.26個 (SD3.62) と14.59個 (SD3.58) で7人の接種医の平均針痕数より有意に高く ($P < 0.01$)、良好でない接種医1名の平均針痕数は、3.34個 (SD4.46) で7人の接種医の平均針痕数より有意に低かった ($P < 0.01$)。

結論 接種医により平均針痕数は有意な違いを認めた。針痕の個数が少ないのは特定の接種医の技術に問題があるためで、接種技術水準向上のためには、これらの接種医に対する技術訓練が必要であると考えられた。

Key words : BCG 接種, 針痕数, 接種技術評価, 接種医

* 東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課

^{2*} 結核予防会結核研究所

連絡先：〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
都庁第一本庁舎21階中央
東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課
杉下由行